



## いちばん大きい種と小さい種は何なの

### 一個が20キログラムの種もある

大きい種の代表は、ヤシの実です。その中でも、オオミヤシの種は最大といわれ、一個が、大きいものでは20キログラムもあります。また、この種ができるようになるまでに、10年もかかるそうです。

小さいほうの代表は、ほかの木の枝や岩の上などにくっついて育つ、着生ランの種です。いちばん小さいランの種は、重さが1億分の1グラムという小さなものです。そのかわり、花びらをもつ植物の中では、いちばん種の数が多いのもランです。

### 種の中身は、ほとんどが栄養分

種を割ってみると、芽を出すもとなる部分(はい)と、はい乳からできている種と、幼根と子葉からできている種の2種類に分かれます。カキやイネ(コメ)の種は、大部分がはい乳、ダイズやクリなどは、大部分が子葉です。はい乳や子葉は、芽が出て自分で栄養分を作ることができるようになるまでの間の、栄養分を準備した、お弁当のようなものです。

種は、たいていかたい皮や殻に包まれて守られていて、少々乾燥や温度の変化には平気です。芽が出るのにつごうのよい、水、温度、日光などの条件がそろうまで、長い間、種はまつことができるようになっているのです。2000年前のハスの種が、芽を出し花をつけて、世界中の人を驚かせたことがあったほどです。(監修・矢野 亮)

